

第2回 青木村ふるさと公園（仮称）整備検討委員会 議事概要

日時 平成26年1月24日 19:00～21:00

青木村保健センター研修室

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

1) 本日の会議の進め方

- ・事務局より会議の進め方の説明

2) 経過報告

- ・資料1にて前回の意見整理を結果報告。
- ・資料2「導入施設の内容と配置の検討」を用いてグループ討議で議論いただくためのたたき台の計画の概要を説明

3) グループ討議・報告

- ・計画平面図たたき台に対してのグループ討議を行った。
- ・「○○(誰)が△△(目的)として使うために□□の施設が必要」という内容で、あらかじめ準備いただいたお考えを出し合い、施設整備に対する提案をグループごとに出し合った。

【A班】

- ・便所が遠い。もう1、2棟あってもよいのではないか。
- ・60歳以上の方向けにゆったり歩ける空間に（歩いて距離がわかる表示）
- ・「未完の公園」の意識で、今後拡大の要素もあるという視点で公園づくりを進めてはどうか。
- ・レンタサイクルの導入を検討してはどうか。
- ・園路に沿って子供たちの手形を入れるような取り組みにより、村民が参加した証を。
- ・モニュメント：青木村の象徴としてそれ自体が遊べるものにする方法もある。
- ・野外ステージは、天候が多少悪くても使えるよう、屋根付に。
- ・シェルター：給湯設備などを付けお湯わかしくらいできるとよい。
- ・国道端がさみしいという指摘もあったので、WELCOMEの花壇整備はどうか。
- ・水の利用を。水遊び場、噴水など。
- ・公園全体の外周に花を。
- ・案内所もあるとよい(道の駅側から公園側へ)。

- ・遊具はメーカーの既製品ではないもので。

【B班】

- ・駐車場：入口 1か所でUターンできるのか懸念が残る。
- ・便所：場所・穴数を検討した方がよい。現在のたたき台の案では少ない印象。
道路を挟んだ南側のエリアにも設置が必要ではないか。
- ・子供の出入りを念頭に置いた柵などの設置を(飛び出し防止)。
- ・水の要素を取り入れたい。例) 防火水槽の設置→貯水槽の水を使って遊び場に
- ・村に（ゆかりの）ある木や花：例えば、村花アイリス、アイリス道路、
杜仲の木、果樹・果実のなるもの、村で奨める樹木の植栽。
- ・眺め：山の名前の由来などのわかる案内板の設置。
- ・ゆっくり安心できる場の検討：車椅子の方が一周できるような動線。
- ・ヘリは停めないといけないのですかという意見もあった。
- ・芝生全面は管理負担も大きいでしょうから、草原にヤギ放牧という形はどうか？
- ・樹木が少ないと夏の暑さ対策が気になる。

【C班】

- ・道の駅側に使われない芝生地がある。これと同じ空間がこちらに広がっても大丈夫か？
という懸念の声があった。
- ・これに対し、防災の視点を重視して「非常時の体験ができる防災公園」として、青木
村ならではの要素（例：食べられる草や山菜、薬草等を活用）を取り込みながら使っ
ていくことで、特色づけができるのではないか、という意見があった。
- ・道を挟んで南側のエリアの使い方として、ドッグランが一例としてあげられた。近辺
にあまりない施設なので、特徴がでるのでないか。
- ・駐車場：案の場所でよいとする意見と、ここに寝泊まりする人もいる可能性を懸念し、
これほどの規模は必要ないという声があった。
- ・野外ステージ：上田方面から来る方に向かって見える、アピールできるような場にす
るには敷地の西側に配置する方法もあるのではないか。
- ・便所：もう 1か所あってもよいのではないか。
- ・地元に育つ草花をうまく使うべきという声は他の班と同様にきかれた。
- ・運動公園や体育館で遊んだあと、どこかでみんなで集まって食べる場として使う、バ
ス路線も活用して車でなくても来られる公園にしてはどうか。

4) まとめ・意見交換

(1) 共通点の確認

より多くの方に受け入れていただける公園という視点から、共通で各グループからあげ
られた内容を整理し、確認した。

- ①便所：位置と数の再検討を求める意見が共通して確認された。1か所集約では少ない

のではないか。道をはさんで反対側にも設置をという意見。

②駐車場：この場所でよいという意見は多い傾向にあったが、使い勝手・規模、台数については意見が複数あるため整理が必要。

③青木村だからこそその要素：とくに、地元にゆかりのある木や花の活用を求める声が比較的多くあった。

④芝生の広場：部分的には草地も取り込みながらというご意見があった。グループのなかでは全面芝生をという声もあったので調整必要。

⑤水：利用を求める声が 2 つのグループから出された。水の使い方は検討のポイントになる。

⑥園路：1 周できる機能の確保（A、B 班共通であげられていた）

（2）補足意見

委員から補足したい内容について意見を出していただいた。内容は以下のとおり。

- ・モニュメントとして予定されている場所に大きな木をもってきてはどうか？
- ・コインを入れて使えるバーベキューの設置ができれば、災害時の利用も含めて活用が可能ではないか。
- ・防災の視点で、非常時にこの村では「こういうことができるんだよ」ということを伝える役目をもつべき。対応できる村内の人々がいることが伝わる機会にすべき。
- ・青木だからできるもの。青木だからこそできるものを生み出せる発想を取り入れた使い方を。
- ・この公園の整備の発端は防災。防災のための公園ならば村民の理解も進むはず。名前も防災公園にしてはどうか？村民も何をやっているかをよく感じると思う。

（3）委員長まとめ

- ・体験ができるることの重要性をご指摘いただいた。（防災のための体験、歩く、遊ぶ等）
- ・多くの人が参加できることの重要性も。たとえば、小学生の手形が残る園路等。
- ・魅力ある観光に向け道路沿いで意識いただけるような配慮(沿道の花壇等)
- ・未完の公園という声もあった。整備ができたら終わりでなく、将来に向けて時間軸で整理していくことも重要という話だと思う。
- ・たくさんいただいた意見をもとに、次回はより具体的のもので議論をしたいと思う。

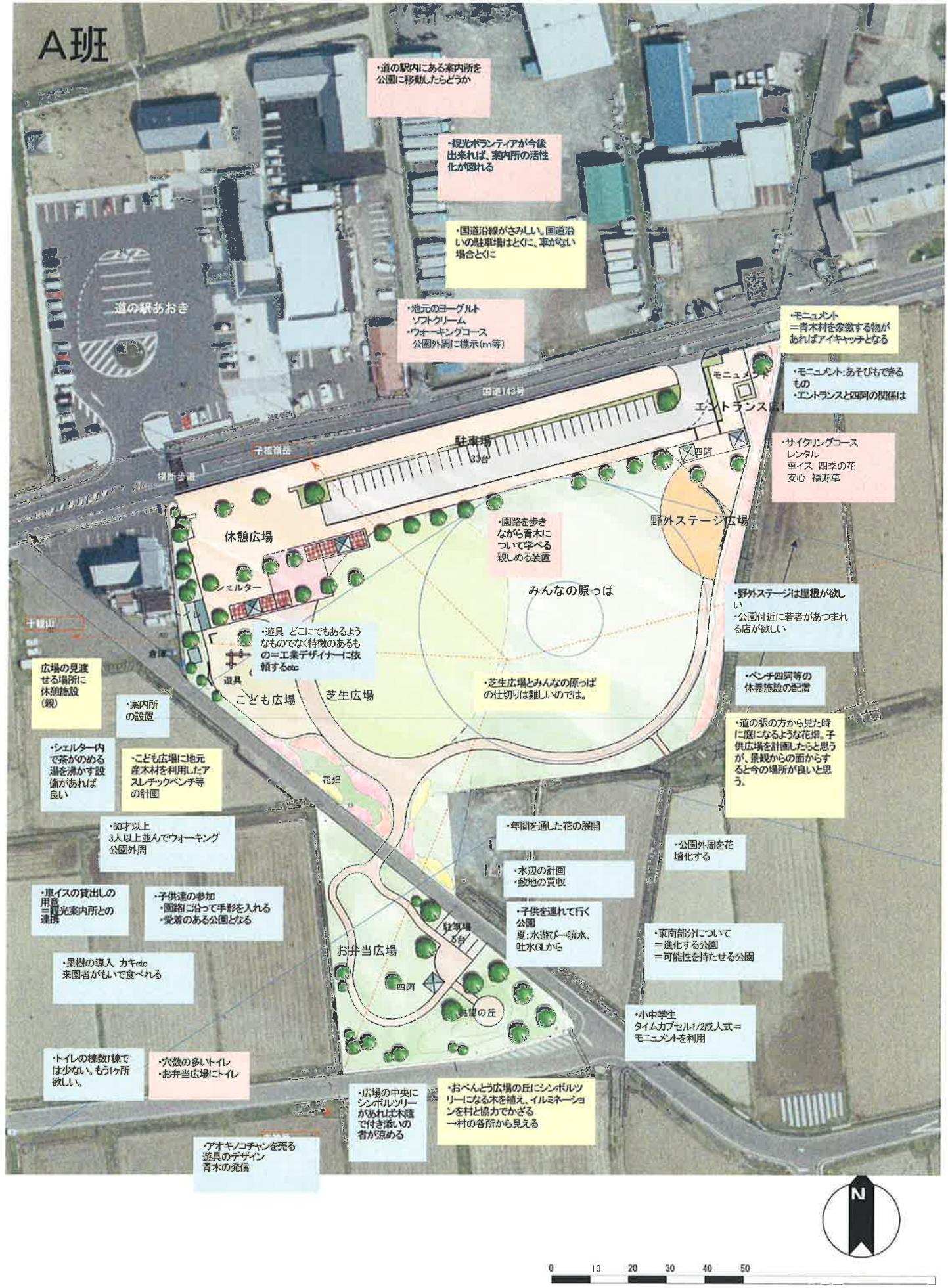
（4）村長あいさつ

- ・公園をどう使うか？ドッグラン、バーベキューなどの提案もあったが、より具体的な使い方をあげていただけるとよいと感じる。
- ・役場としては、管理面での今後の村民の皆さんのかかわり方が重要。
- ・次回までに、図面を持って行って現地で考えていただけとありがたい。

4. 閉会

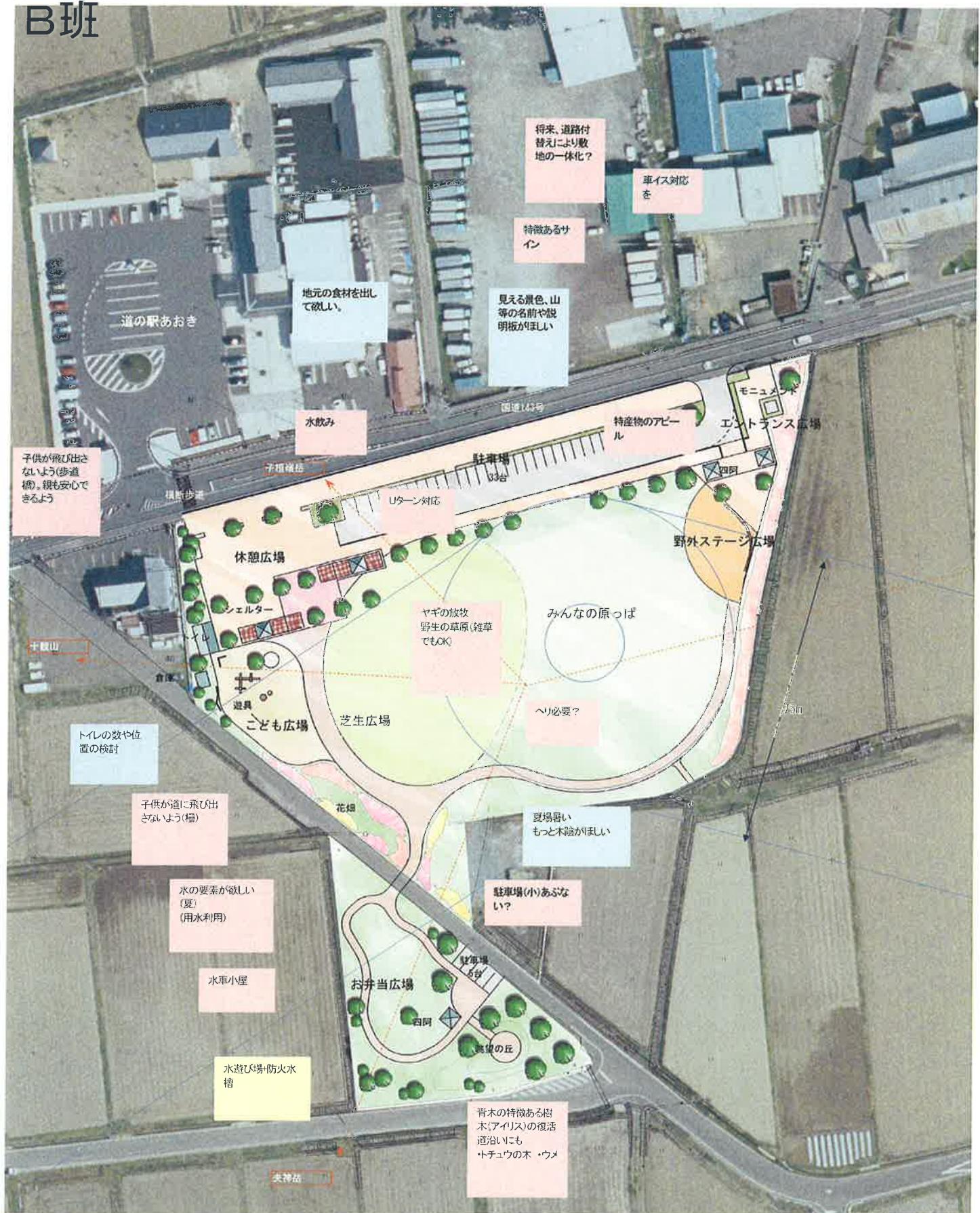
次回は 2 月 17 日を予定。

A班



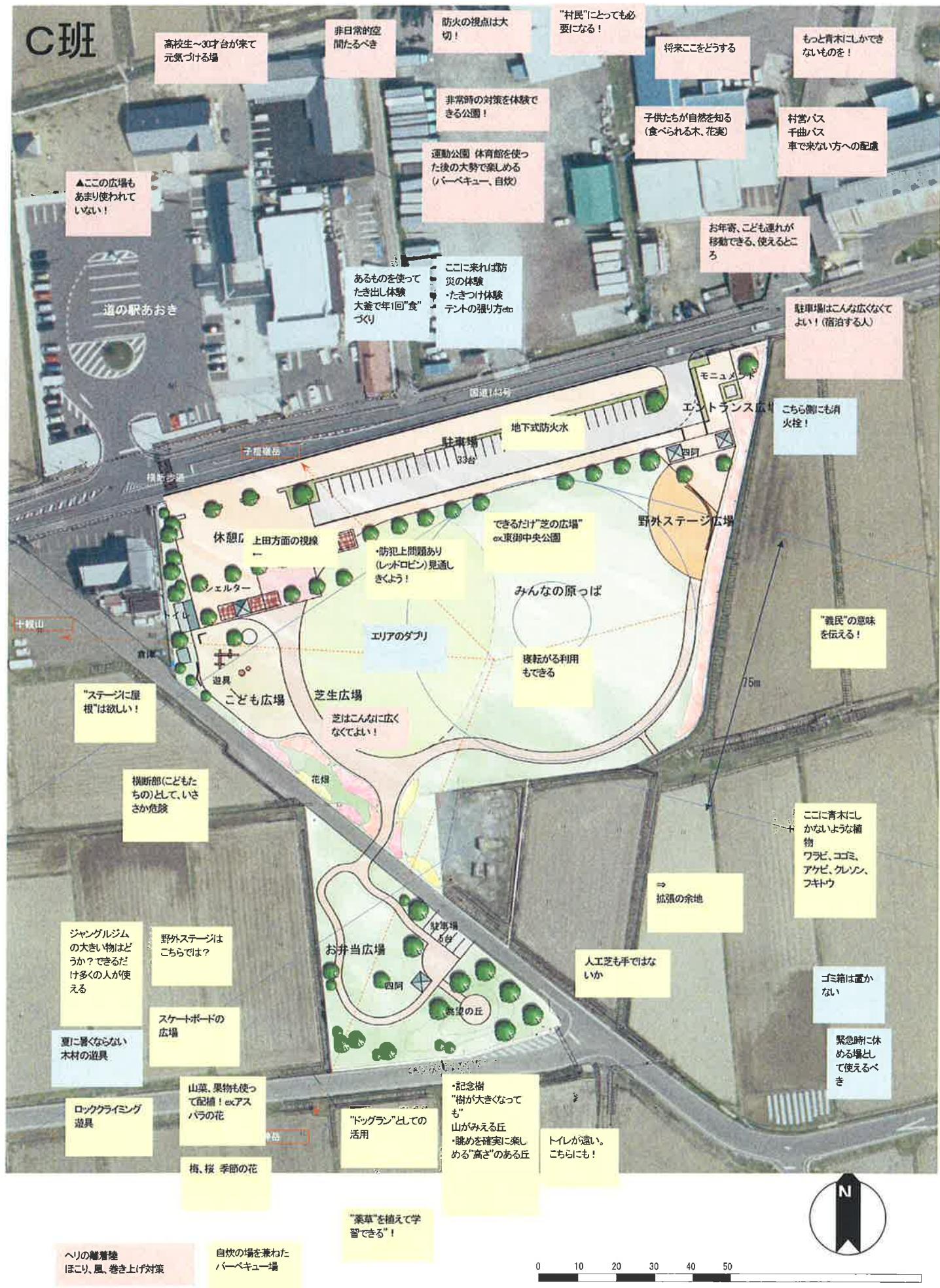
付図-1

B班



A horizontal number line ranging from 0 to 50. Major tick marks are present at intervals of 10, labeled 0, 10, 20, 30, 40, and 50. The segment of the line from 0 to 10 is filled with a solid black color. A small open circle is placed on the line at the position corresponding to the value 25, with the label 'x' positioned directly above it.

C班



付図-3